

にほん あす かんが
日本の明日を考える

ルック・イーストとともに、シャンがポール・マレーシアの^{りょうこく}両国がかかげ
ている^{せいさく}政策に“グリーン アンド クリーン”があります。

みせ なか おおめ み くに みち たばこ
店の中では、大目に見ているようですが、どちらの国も、道ばたに煙草の
す す ごまんえん ばっきん いっぱんしょみん げっしゅう やくよん
吸いがらを捨てると五万円の罰金をとられます。一般庶民の月収が約四、
ごまんえん いっ げつぶん きゅうりょう は
五万円だそうですから一か月分の給料がとんでしまうわけです。つばを吐
いても^{おな}同じように^{ばっきん と}罰金を取られますから、街は^{まち}ほんとうに^{ばっきん}きれいです。罰金
せい
制だからきれいなのだと言う人もいます。

かんこうち あたみ やま す わたし かぜ ひ やまかじ
観光地である熱海の山に住む私にとって、風のある日など、山火事の
げんいん たばこ な す きょうふ たね うつく かいがんせん な
原因となる煙草の投げ捨ては、恐怖の種です。また、美しい海岸線に投げ
す かん ぶくろ おも
捨ててあるジュースの缶やビニール袋にもなさけない思いをしています。

こうしたことは、^{こうち おな なや かか}どこの観光地でも同じ悩みを抱えているらしく、シーズン
になると^{まち}町のボランティアや^{しょうちゅうがくせい せいそうふうけい}小中学生の清掃風景がテレビのニュース
^{ほう}などで報じられますが、^{じもと ひと}では、^{まち いと うつく}地元の人が、^{まち}わが町を愛し美しくしなけれ
ばなりません。そうしたときはじめて、^{まち よご}「町を汚すのなら^{まち こ}町には来ないで
れ」と^{ほこ}誇りをもって^{かんこうきゃく い き}観光客にも言い切れるのでしょうか。

シンガポールもマレーシアのクアラルンプールも、^おごみ一つ落ちていない

うつく まち もんく おお かんこうきゃく おとず
美しい街、というのがうたい文句となって、多くの観光客が訪れていま

す。シンガポールとマレーシアを見てきて、それがたとえ罰金制であっても、

まち うつく くに
街が美しくなり、国のイメージアップとなっているのはすばらしいことだ

おも ぼっきんせい しゅうかん ぼっきんせいど
と思いました。いまは罰金制でも、いつかそれが習慣となり、罰金制度が

なくなっても、それが国や自分たちの生活をうるおすことにつながると、

ぜんいん かんが くに す ひと わたし
全員が考えたとき、あの国にはごみを捨てる人がいなくなるはずだと私

には思えるからです。それにはまず、ひとりひとりの自覚がたいせつです。

こくど たいせつ おも ところ
グリーンは国土を大切に思う心、そしてクリーンは、この国づくりに、

ひとりひとり こころがま たいせつ よ おしよく
一人一人の心構えが大切だと呼びかけています。シンガポールには汚職が
ありません。

み ところ おしよくてんごく にほん いちこくみん た
でも見えない所では……などと、汚職天国の日本の一国民としては、多

しょうげ せわ かんが にかい しゅざいりょう ほんもの
少下世話な考えをもっていたのですが、二回にわたる取材旅行で、本物な

しん こうむいん おしよく はつかく
のだと信じざるをえませんでした。とくに公務員の汚職は、発覚したら

いちだいじ しょうらい き す
一大事、その将来ははっきりと切り捨てられてしまうのです。

おさないみえこ せいき い きみ にほん あす かんが
(小山内美江子『21世紀を生きる君たちへ 日本を明日を考える』より)